

令和3年度 第4回 都田南小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和3年12月10日（金） 15時30分から17時30分まで
- 2 開催場所 都田南小学校 ふれあいルーム
- 3 出席委員 馬淵 信夫、山下 泰弘、神間 智博（途中出席）、石田 由紀子、長谷川 卓人、牧田 景子
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 山下 幹夫、大石 智香子、池谷 崇仁、谷野 文彦、服部 美保
- 6 オブザーバー 教育総務課 小川氏、都田協働センター 野中氏
- 7 傍聴者 0人
- 8 協議事項
 - (1) ボランティア活動との連携について
 - (2) 校内教育活動について
 - (3) 承認
- 9 報告
 - (1) CS活動報告
 - (2) アプリについて
- 10 その他
 - (1) 給食費公会計化の流れとPTA活動のあり方について
 - (2) 学校運営協議会自己評価の記入のお願い
 - (3) 学校評価アンケートの記入について
- 11 会議録作成者 事務局 服部美保
- 12 会議記録

司会の大石から委員総数6人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) ボランティア活動との連携について

学校支援コーディネーターである牧田委員から、来年開催されるボランティア講座について説明があり、牧田委員が講師として出席する旨の報告があった。来年度中学に進学する6年生を対象とする自転車の乗り方講座の他に、何か良い講座等はないか、委員に意見を求めた。委員からは以下の発言があった。

- ・自治会の人達と地元の課題について話し合ったときに、やはり交通安全が大切だねという話になった。（長谷川委員）
- ・自転車の乗り方教室について、小学校から中学校まで自転車に乗っていくという話だが、主催者は決まっているのか。公道を走ると自転車の保険も検討していく必要があると思う。（都田協働センター 野中氏）
- ・主催者はまだ決まっていない。（牧田委員）
- ・参加者にだけかけるイベント保険に入るのが良いと思う。（山下委員）

- ・児童自身の怪我については保険が出ると思うが、万が一児童が加害者になった時に相手に対しての保証があるのかを確認した方が良いと思う。(都田協働センター 野中氏)
- ・6年生の自転車教室については、ずっと前から要望があったが実現していなかった。そこで、このコミュニティスクールでやってみようと思った。土日の活動だと学校が関わることができない。大きな課題は主催を誰がやるのかということ。(校長)
- ・ほかにも、コロナウイルス感染症の影響で奉仕作業ができていないので、地域のごみ拾いに参加するのも良いと思う。(校長)
- ・一般社団法人 MIYAKODA の鳥居さんが都田駅周辺で月に一回ごみ拾いをしていると聞いている。子どもたちが一緒に参加するのも良い方法だと思う。自治会の公園清掃に、子供たちにもっと積極的に参加して欲しいと思う。(長谷川委員)
- ・既存の活動だけでなく、例えばランニングしながらごみを拾うとか色々なアイデアが出てくると良いと思う。(校長)
- ・MIYAKODA さん主催のごみ拾いは、こちらでチラシを作り、学校を通じて児童に配ることができる。(牧田委員)
- ・自転車の乗り方教室について、主催者になってくれる人はいないか。誰か知り合いなどでないか。(牧田委員)
- ・都田のカプロジェクトという地元の有志の会があり、約170人の会員がいる。会長は私が務めているが、力になれると思う。(神間委員)

協議の結果、都田のカプロジェクトが主催者となり、牧田委員と都田中学校の学校支援コーディネーターの協力で自転車教室を進めることになった。

(2) 校内教育活動について

情報教育主任池谷教諭より、都田南小の ICT 活用について、別紙資料に基づきプロジェクトにて説明があった。

- ・文部科学省が提唱する GIGA スクール構想は、発足当初令和5年度までに一人一台という目標を掲げていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により予定よりも早急に導入されることになった。本校では現時点で児童全員分と予備の合計391台の端末が既に納入されており、各教室に配置されている。授業での活用も進んでいる、2年生の生活科の授業では、畑の大根の観察に端末一台だけを持って畑へ行き、写真を撮ったあと教室に戻り、端末でレポートを作成した。端末を使用することにより、今までよりも短時間でしっかりしたものを完成することができた。本年度は学年ごとにクロームブック活用目標を設定し、学期末にアンケートを行い目標達成度を確認している。

委員からは、以下の発言があった。

- ・これからの時代は情報モラルの指導がとても大切になってくる。全学年に指導が必要。(校長)
- ・畑で写真撮影をしたときに、写すのなら友達が入らないように、入るのならその友達に許可をもらわなければいけない、という指導をした。1年前はそのようなことは考えていなかった。今年行われた音楽発表会では事前に保護者に対し情報モラルについての通知を出している。(池谷教諭)

- ・今は操作方法に重点を置いているが、これからは教育にどう活用していくのか伺いたい。(長谷川委員)
- ・端末の操作は大人よりも子どもの方が早い。操作も慣れてきているので来年度は次の段階に進みたい。三学期は職員のための研修も実施したい。(池谷教諭)
- ・この会議の場で一度実際に端末を使ってみると良いと思う。委員のスキルアップにもつながるし、より学校を知ることができると思う。(神間委員)
- ・大人がまず知らなければ子どもにも教えることができない。I C T化の足を引っ張ることがないようにしたい。(校長)
- ・端末を使う時間が長くなると、姿勢や目の問題が心配になってくると思う。(石田委員)
- ・端末を続けて使う時間は30分以内とし、子ども達には時間になったら必ず休むように呼びかけをしている。(池谷教諭)
- ・モラル教育に加え、健康教育も一緒にやっていかなければいけない。それと同時に保護者にも理解を求めていく。次回の会議の中で実際に端末の操作を試みよう。(校長)

報告

(1) C S活動報告

学校支援コーディネーターの牧田委員より活動報告があった。先日の研修会では人づくりネットワークセンターのことを知った。登録している講師の方に依頼をするのには1ヶ月前の申込が必要な為、先生からの依頼は遅くても1ヶ月前には申し出が欲しい。これからも引き続き子どもと関われる活動をしていきたい。

(2) アプリについて

長谷川委員より、現在開発中のボランティア登録アプリについての課題点についての報告があった。

- ① 現在は Android にしか対応していないので iPhone ユーザーが利用できない。
【解決策】 iPhone でも使えるように、今後はWEBアプリ化していく。
- ② 地域の方の巻き込みが難しい。
【解決策】・子どもも参加できる自治会行事のアプリ活用
 - ・地域の「憩いの場」の創出。空き教室等を利用して
 - ・年間カリキュラムへの組み込み

委員からは、以下の発言があった。

- ・お祭りのときに協議会でブースを設けて人寄せするような工夫をしたらどうか。学校に興味を持ってもらい、アプリに登録してもらえば。(神間委員)
- ・将来的には子供たちにも自治会に参加してもらいたい。(石田委員)
- ・ラインは見るが回覧板は見ないような世帯もある。回覧板の補助機能としてアプリを使うことができれば自治会にとっても利点はあると思う。年配の方の憩いの場として学校の空き教室を使うことができれば、生きがいにもなるし子供たちにとってもためになる。(神間委員)
- ・来年度、南側の鉄骨校舎は日中は空き教室になる予定。憩いの場にしていけるのも良い

のでは。(都田コミュニティハウスの設置)(校長)

- ・横浜市立東山田中学校には、学校の敷地内にコミュニティハウスが設置されている。この学校は設立当初からこのように設計されていて、コミュニティハウスはNPOが運営している。(長谷川委員)
- ・保護者も学校に来やすくなる。空き教室で講座を開催するのもよいのでは。(牧田委員)
- ・このアプリの特徴は承認制をとっているというところだと思う。お祭りのときには色々な人がブースにやってくる可能性があるが、不特定多数の人をそのまま登録するというのは安全性に問題があるのではないか。このアプリの承認制が人をみるワンクッションになっていると思う。(都田協働センター 野中氏)
- ・まずCS活動を知ってもらい、輪を広げたいと思う。そのためにお祭りに協議会として参加するのは良いと思う。(牧田委員)

その他

(1) 給食費公会計化の流れとPTA活動のあり方について

教頭の大石より給食費公会計化の流れとPTA活動のあり方について説明があった。来年度、学校給食費の決済方法が変わる予定であり、それに伴いPTAの収支も見直しているところである。詳しくは次回の会議で改めて説明することとした。

(2) 学校運営協議会自己評価の記入のお願い

教頭の大石より学校運営協議会自己評価について、別紙評価用紙へ今年度の自己評価を記入し、来月末までに返信していただくよう依頼した。

(3) 学校評価アンケートの記入について

教頭の大石より別紙学校評価アンケート用紙を配付し、記入を依頼した。

その他報告事項等

司会から、次回会議は2022年2月22日(火)午後3時30分から開催する旨の報告があった。